

しもすえよしかいしん

下末吉海進ってなんのこと？



下末吉海進の古地理図



黒の実線が現在の海岸線、青の破線が下末吉海進の海岸線。

町田（1973）、当間（1974）、関東第四紀研究会（1987）、岡（1991）、江藤ほか（1998）、笠間（私信）を参考に作成。

みんなの家は地上？それとも海の中？

12.5 万年前の海進

地球の歴史では、何度も海進がおこったことが知られています。神奈川県で確認されている、地球の歴史からみて最も近く、規模が大きかった海進が下末吉海進です。海進は毎回同じ規模で起こるわけではありません。下末吉海進は12.5万年前の海進で、綾瀬市や海老名市、厚木市付近まで海が入り込んでいたと考えられます。

海進の名前は、縄文海進のようにある時代の名前や、調査・研究が行われた地域の名前をとったりして名付けられます。では、下末吉海進はどうでしょうか？

横浜市鶴見区、JR鶴見駅の北方の鶴

見川沿いに、末吉という地域があります。末吉は鶴見川上流の上末吉と下流の下末吉に分けられています。下末吉海進はこの地名から名付けられたのです。

下末吉海進の時にたまった地層を下末吉層といいます。この地層は、東京大学の太塚弥之助教授が下末吉地域を調査して、1930年に名付けた地層です。下末吉層またはそれに相当する地層が見つかることで、下末吉海進を認識できます。

下末吉層は、日本の地層の中でも有名な地層の一つです。それは、下末吉海進のときの温暖化と海進がとても大規模で、そのときの地層が神奈川県以外でも確認されているからです。

日本の海進には下末吉海進のほか、いつの時代に、どんな名前の海進があるかな？名前の由来も調べてみよう。

参考

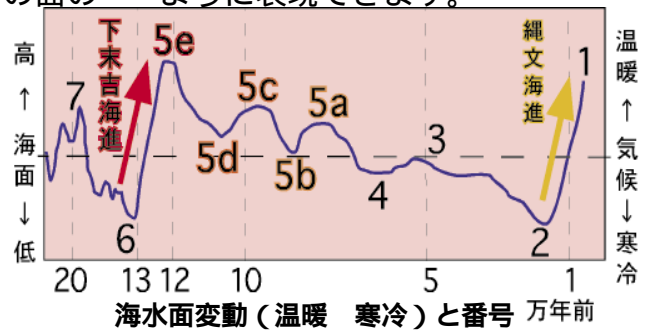
- 江藤哲人・矢崎清貴・卜部厚志・磯部一洋, 1998. 横須賀地域の地質・地質調査所.
 - 関東第四紀研究会, 1987. 大磯丘陵の層序と構造. 関東の第四紀.
 - 小池一之・町田洋, 2001. 日本の海成段丘アトラス. 東京大学出版会.
 - 町田洋, 1973. 南関東における第四紀中・後期の編年と海底地形面の変動. 地学雑誌.
 - 岡重文, 1991. 関東地方南西部における中・上部更新統の地質. 地質調査月報.
 - 当間唯弘, 1974. 横浜付近の下末吉面の陸化過程. 第四紀研究.
- ワークテキスト5.

下末吉海進によってつくられた段丘面を下末吉面だんきゅうめんといいます。下末吉層が名付けられた鶴見区下末吉には、下末吉面が分布しています。下末吉面（台地）の上には鶴見高校や末吉中学校が建っており、下末吉面の下の面（沖積低地ちゅうせき）には末吉小学校が建っています。そして上下の面の間は、侵食しんしょくされてできた段丘崖で隔てられています。下の面は縄文海進によってつくられた面で、段丘崖と下の面の

境に縄文海進の海岸が位置していました。下末吉地域では、最近おこった2つの代表的な海進の記録を観察できるのです。

下末吉海進は、一方で

酸素同位体ステージの番号で「5eのイベント」と呼ばれています。この番号は、過去何回も起こった海進・海退の記録を現在から遡って数えた番号です。大きな海進・海退の5番目にあたり、さらにその中の5番目（a～e）のイベントという意味です。このように番号で表すことで、各地・各国でばらばらに呼ばれていた海進・海退を、簡単に同じイベントとわかるように表現できます。



空からみた下末吉面（横浜市鶴見区下末吉）。下末吉海進でつくられた下末吉面（下末吉台地）を南から望む。西側（左側）の下末吉面が、後に形成された東側（右側）の沖積低地（縄文海進の面）と段丘崖で分かれる。